

「新潟の自然から考える地球の未来」

新潟大学附属新潟中学校 1年 佐藤 悠雅

小4の頃に父と海岸へ行き漂着ゴミを利用してアート作品を作った。プラスチックやガラスなどさまざまな漂着ゴミで面白い作品ができたのだが、これらは全部ゴミなのだという事実にはハッとした。小5の授業で漁網にからまったアザラシ、鼻にストローが刺さった亀を知ったとき、漂着ゴミを思い出し、海洋ごみ問題が自分にも関係がある問題だと感じた。マイクロプラスチック問題に関心を持ち、イワシの煮干し121匹を解剖した。これは我が家で出汁をとるのに使っている煮干しだ。2匹の胃からマイクロプラスチックを検出したとき、食物連鎖を通して人間にも影響を及ぼすことを確信した。

僕の住む新潟市は日本海に面し、信濃川と阿賀野川が流れる自然豊かな町だ。僕は新潟市歴史博物館での活動を通して河川の汚染状況を研究調査する中で、今の美しい自然や安心して住める環境が以前は違っていたことを知った。それは新潟水俣病だ。

夏休みに詳しく学ぶために「新潟県立環境と人間のふれあい館」を訪れた。阿賀野川に毒性の強いメチル水銀が流され、食物連鎖を通じてプランクトンや魚へと取り込まれ高濃度に濃縮された川魚を食べた方たちが水俣病になった。メチル水銀は脳の神経細胞を破壊し、手足の感覚の低下やしびれなどの身体的な症状に現れ、今なお苦しんでいる方がいることを知り心が痛んだ。

経済の急成長で需要が増えたプラスチックを製造する過程でメチル

水銀を排出していたことが新潟水俣病の原因になった。その後石油化学方式へ転換され現在まで続いている。

僕はバイオマスプラスチック製造会社の最高未来責任者を経て特別研究員として活動している。石油化学方式はメチル水銀を排出しない点から言えば安全かもしれないが、マイクロプラスチック問題の原因になっていたり、焼却時の二酸化炭素排出、枯渇の心配など新たな問題がある。僕は安全な材料である牛乳とレモン汁でプラスチックを作り、人間の尿からプラスチックを作る実験にも成功し、成果を新聞テレビで扱っていただいた。

資源を無駄なく使い、自然と共生できる循環型の社会の実現が美しい地球を未来につなぐ方法だと思っている。便利さや価格の安さを追求するあまり、環境汚染を顧みない経済優先の行動を続けた先の地球が美しく安全であるはずがない。過去の過ちを教訓にしなければならない。

アマゾン川流域で金採掘を原因とする水俣病が発生していることを新聞で読んだ。水俣病が発生し自覚症状があるのにそこで働く他に生きるすべがない人たちがいる。命あってのお金であるはずなのに、お金のために健康や命を犠牲にしている現状が世界にはある。

世界や途上国の課題を理解するためには、まず僕たちが自分の住む町の環境や歴史に興味を持ち学ぶことが大切だと思う。課題は私たちの身近な生活の中にあるのかもしれない。地域の人や自然を大切にす